

2021「新港の森 四季の観察会」第3回

1. 目的 新港の森を、四季を通じて観察し、樹木の名前を覚えるだけでなく樹木の不思議さと人と樹木、生活と樹木のかかわり、生態系における役割について学ぶ。
新港の森は人の手によってつくられた公園、樹木も人が植えたものということを踏まえてここならではの話題を解説する。

2. 日時 令和3年10月23日（土） 晴れ

3. 参加者 15名

4. 講師 樹木医 佐伯 肇

5. 開催者・事務局 新港の森管理事務所 筒井 所長
同上 西尾 氏

6. テーマ 「新港の森ファンクラブこぼれ話」

7. 解説の実施内容 （当日の観察経路の時系列に沿って記載）

- 絵かき虫・・・葉の中に潜り込んで生活する昆虫類の愛称です。白っぽく絵を描くように食害しながら移動します（葉っぱの厚み1mm未満の中で厚みの半分だけ）葉脈の間の柔らかい部分を食べ、一筆書きの迷路は天敵（寄生蜂の仲間）から身を守るためです。時にはト音記号のような模様を描くこともあり、森の観察での楽しさに加えるのも一興かと！



アカメガシワの葉っぱ

対する桜の葉っぱ(右写真参照)にある穴は、虫食いのように見えますが、「せん孔褐斑病（せんこうかっぱんびょう）」と言う菌の一種の病気によるものです。

自らが、病気が蔓延しないように病気に掛かった所に穴を開けて食い止めた跡です。



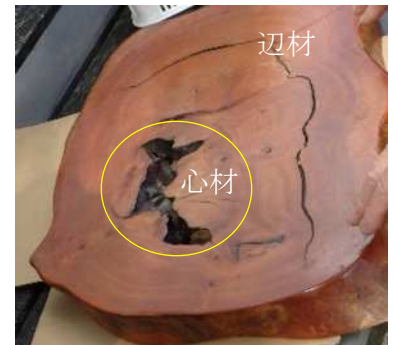
サクラの葉っぱ

- 年輪・・・木を横に切った切り口に見られる、同心の輪を言います。
1年ごとに輪が増えるので樹齢が分かり、また樹木の生きざまも分かります。

床の間の飾り板（ケヤキ）

空洞域が中央より左下側にずれています。
ほぼここが心材に当たり、周りを辺材と呼びます。
樹木の生態として心材は休眠状態で腐りやすく、
辺材が活発でさえあれば健全に生長します。

年輪の幅の違いにより環境の一端が分かります。
年輪の幅の違いは日照条件ではなく、力がかかった
証で、大きく育った方を「アテ」と呼びます。
ケヤキは広葉樹なので右上方向に引っ張られていた
ことが分かります。針葉樹の場合だと、反対に右上
からの圧縮作用となります。



切り株

開口空洞樹木の切り株をみると、力を支える外周部分
の一部が局部的に欠けた状態を示しています。樹木は
欠陥部を自ら修復するため肥大成長を速めます。その
結果、羊の角のように巻き込んだ「ラムズホーン」と
呼ばれる形状になったものです。



ひこばえ・・・切り株や木の根元から出る若芽を言います。

胴吹き・・・幹や枝から出るもの

どちらも、光合成をしたがっています。

右写真の“ひこばえ”アキニレがしっかり再生しています。



- テッポウムシ・・・カミキリムシの幼虫のこと

1年から2年にもわたる長期間、木の内部を食い荒らす
ため、木に穴が空くだけではなく、枯れてしまいます。
不自然におがくずのようなものが積もっていた場合は
要注意です。

右の写真のような草の茎がすっぽり入り込む程深い穴が
開いています。



- カエデとモミジ・・・カエデとモミジの違いは？

葉の切れ込みが深いカエデを、「〇〇モミジ」と呼びます。
 葉の切れ込みが浅いカエデを、「〇〇カエデ」と呼びます。
 しかし、どちらもカエデ科で植物の分類上は同じです。



ヤマモミジ

カエデの特徴としてプロペラ状の翼果があり、色付きます。
 秋の紅葉では赤くなったり黄色になったり色々ですが、
 複合して赤と黄色が混じるのもよく見られます。
 赤色の色素=アントシアニン、黄色の色素=カロチノイド



トウカエデ

きれいな紅葉の条件

- ①気温が下がること
- ②日当たり（紫外線がアントシアニンを作る）
- ③湿度

京都の紅葉は日当たりを確保するなどして、人工的に一段と艶やかさを増やしている側面があります。

- サンゴジュ・・・夏から秋に赤く熟す実を海のサンゴに見立てて珊瑚樹と名付けられました。

生け垣、防風・防火樹に利用されます。

潮風や排気ガスに強い

葉は水分が多いため燃えにくい

葉っぱは肉厚があり、すべすべして光沢

上半分に低く鈍いきょ歯

葉柄が長い

冬芽は夏から出来ていて、芽鱗に包まれている

主脈と側脈の付け根に凹部（写真参照）

葉脈が互い違い（写真参照）



葉裏の脈腋 表面の葉脈

- クロマツ・・・道を挟んでクロマツとヒマラヤスギが植えられています。

一般的に日本では、ヒマラヤスギと比べてマツの方が圧倒的に好まれます。

クロマツは剪定の段階で、真っ直ぐか右傾き、左傾きかを操作できます。【盆栽】。

一方、ヒマラヤスギは樹形の操作は出来ません。

ちなみに、ヒマラヤスギと言いますが、れっきとした松の仲間です

- 松ポックリにみる動物の気配・・・リスとネズミ

リスは、松ポックリの柔らかい部分（種子）のみを丁寧に食べて芯は食べ残します。森のエビフライの完成です。対してネズミは、ひたすらかじるなど行儀がよくないので、エビフライのようにはなりません。



- クルミに見る動物の気配

リスは几帳面なのかクルミを半分に割ってから食べます。他方のネズミは、殻を直接かじって穴をあけて食べるようです。



夜行性なので食べているところを見るチャンスはありませんが、食べ残しの発見で気配を感じることはできます。

9. 反省、感想など

「こぼれ話」と題した今回の観察会では、森の中にいる大小の動物の生態と樹木の関係性についていつもとは若干異なる視点で捉えられたように思います。特に、森を見る上で、生き物の存在は外せないと感じました。また、夜行性の動物を直接見ることは出来ませんが、その痕跡からその動きを想像できることは楽しさ倍増だったのではないのでしょうか。

今後とも、参加の皆さんに森を十分楽しんで頂けるような企画が望まれます。

以 上

(記録 村井 邦雄)